

【情報公開文書】

2021 年 5 月 13 日作成

Ver.1.0

研究課題名	造血器疾患の分子病態の解明ならびに有効かつ安全性の高い治療法開発を目指す基盤研究
所属（診療科等）	長崎大学病院 血液内科
研究責任者	宮崎 泰司 （教授）
研究機関	《研究代表機関》 名古屋医療センター 臨床研究センター 高度診断研究部長 真田昌 《共同研究機関》 長崎大学病院 血液内科：宮崎泰司 その他、全国で約 30 施設で実施しています。 詳しい共同研究機関をお知りになりたい方は下記の『お問い合わせ先』へご連絡ください。
研究期間	2021 年 7 月 13 日～2025 年 3 月 31 日
研究目的と意義	[研究の背景] 白血病やリンパ腫などの血液疾患の治療成績の改善のためには、どのようにして病気が生じ、どのようにして病気が進行するのか、といった原因を明らかにすることが必要です。原因解明の方法の一つが遺伝子解析です。近年の遺伝子解析技術の進歩により、ヒトの遺伝子のほぼすべての配列情報を解析することができるようになり、多くの病気の原因遺伝子がわかってきています。その一方で、血液疾患などに起きている遺伝子異常は、同じ診断であっても、患者さんによって異なることも明らかとなっています。そのため、病気の特徴を知るためには、多くの患者さんの細胞を解析させていただくことが必要です。 また、血液疾患の発症およびその合併症には、しばしば免疫の異常が関与していることが知られています。免疫が過度に働けば、本来病原菌から守るための免疫が自分の細胞を攻撃してしまうことになりますし、免疫が十分に働かなければ、血液がんの進展が促進されてしまうことがわかってきています。患者さんの細胞を用いて実験することにより、免疫の異常による血液疾患、その合併症に及ぼす影響を明らかにできる可能性があります。 [研究の目的] この研究は、造血器疾患の発症の原因となる遺伝子を見つけだすと同時に、血液がんの重症度や進み具合、また治療に対する反応性などについて遺伝子を調べることにより正確に診断できるようにすることを目的としています。また、造血器疾患や造血幹細胞移植術後に見られる免疫の異常を明らか

	にし、その免疫がどのようなメカニズムで異常をきたしているのか、患者さんの細胞を用いて詳細に解析します。
研究内容	●対象となる患者さん 長崎大学病院で診断された、造血器疾患（急性白血病・慢性白血病・リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症など）の16歳以上の患者さんで以前に造血器疾患に関する下記の臨床研究にご参加され、検体・情報の保管に同意の頂いた方 ・成人造血器腫瘍の網羅的遺伝子解析による標的遺伝子の探索 ・名古屋医療センター・バイオバンク事業（医学研究を目的とした血液疾患検体の保管）
	●利用する情報／試料 上記の臨床研究で収集した情報から下記の情報を利用します。 日常診療から得た診療情報（病型、性別、年齢、診断日、再発の有無・再発日、最終観察日、造血幹細胞移植施行の有無・同施行日、治療内容、染色体分析結果、造血器疾患診断時の細胞表面抗原解析の結果、血液検査結果、骨髄所見、病理所見、臨床病期など 検体試料：血液、リンパ節・リンパ組織、その他病変の浸潤の疑われる組織、骨髄、脳脊髄液、胸腹水、など（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに同意を頂いたもの）。 本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。
	●研究の概要・方法 1)情報・試料の取得 上記の情報を研究事務局（国立病院機構名古屋医療センター）へ提出します。長崎大学病院で保存されている検体や試料は、代表機関である名古屋医療センターへ配送で提出されます。 2)解析 名古屋医療センターおよび共同研究機関（解析機関）で解析が行われます。また、一部の解析業務を委託するタカラバイオ、マクロジェン・ジャパン等の外部企業に検体を送付し解析が行われます。解析結果は、研究代表者機関である名古屋医療センターにインターネットを介して返却されます。解析後、残った検体は代表機関である名古屋センターへ返却され、研究終了後も保管いたします。
	【研究担当者】 氏名：佐藤 信也（医師） 長崎大学病院 血液内科
問い合わせ先	

	住所：長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7380 FAX 095（819）7538 【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616 受付時間 ：月～金 9:00～17：00（祝・祭日を除く）
--	--